

プロジェクト情報

- 国名：フィリピン
- 事業名：台風ヨランダ災害緊急復旧復興支援プロジェクト（開発計画調査型技術協力）
- 協力期間：2014 年から 2016 年
- 相手国機関：内務地方自治省

1. プロジェクトの概要・背景

2013 年 11 月にフィリピンを襲った台風 30 号「ヨランダ」は、フィリピン中部のビサヤ地方を中心に横断し、死者 6,000 人以上、被災家屋 100 万戸以上、避難民 400 万人以上の被害を及ぼしました。JICA は、台風発生直後に、国際緊急援助隊・医療チーム（1～3 次隊）、専門家チームを派遣するとともに、6,000 万円相当の緊急物資供与を行いました。

2014 年 1 月には、「台風ヨランダ災害緊急復旧復興支援プロジェクト」が開始されました。このプロジェクトは、台風ヨランダにより被災した地域の早期復旧・復興と、より災害に強い社会の再建を進めるための計画作りを支援しています。また、今なお家屋や公共施設等の被害が深刻で、生計手段を失い困窮状態が続いている人々のニーズに対応するために、この地域の主要産業であるココヤシや養殖、小規模農水産加工産業の再開支援、公共施設の復旧、災害に強い施設を復旧・復興するための技術者の技能の向上支援など、即効的な効果が見込める緊急復興事業（クイックインパクト事業）を実施しています。さらに、日本の震災等からの復旧・復興の経験や教訓を共有するために、東日本大震災で被災した東松山市の職員を現地に派遣し、関係機関へ助言を行いました。

2. ジェンダー視点から見た自然災害と復旧・復興支援

一般に、妊婦をはじめ女性は「災害弱者」と認識されることが多く、自然災害が女性に与える影響は男性よりも大きいと言われています。また、災害後、家庭内や避難所で女性に対する暴力が増えることも知られています。一方、女性は、災害から家族を守るための準備をし、災害後のコミュニティを再建するために必要な知識と能力を備えている力強い存在でもありますが、必ずしも女性が意見を述べるための機会が確保されているとは限りません。地域防災の重要な担い手でもある女性の意見を、災害後の救援や復旧・復興を含むあらゆる災害リスク管理の政策や計画、意思決定過程に反映させることが必要とされています。

3. ジェンダー視点に立った取り組み

クイックインパクト事業では、ジェンダー視点に立った以下のような取り組みを行っています。なお、今回被災した現地の自治体では、被災前から女性グループを支援する女性職員が活動しており、それら職員が被災後もいち早く女性グループと連絡を取っていました。プロジェクトは、このような女性たちのネットワークを通じた情報により、被災の状況や支援を必要としている団体を迅速に知ることができ、以下の支援につながりました。

(1) 被災女性グループによる農水産加工を通じた生計手段の復興

トロサ町では、5つの女性グループが、生計向上を目的として、一次産品から加工食品を生産する活動を行っていましたが、台風ヨランダにより、加工食品生産場所であった建物や製造機器が深刻な被害を受け、活動できない状態になりました。プロジェクトでは、施設の再建と女性グループへの加工技術や運営に関する研修を実施し、女性グループの活動再開を支援しています。

(2) 被災者の生計向上を図るための販売促進

地域で被災住民男女によって生産・加工された特産物の販売促進拠点を整備し、展示・販売することで、販路が拡大することを目指して活動を行っています。食品加工者及び販売者として働く女性グループへの加工品調理技術訓練も実施しています。

(3) デイケアセンターの再建

フィリピンのデイケアセンターは、子どもの健康管理や虐待からの避難所、出産前後の妊婦支援、働く母親への支援などのため、各行政村に設置が義務付けられていますが、台風ヨランダにより全壊した建物も少なくありません。そこで、プロジェクトでは、保育所の機能を持つデイケアセンターを再建し、女性の働く環境を整備するとともに、センターを拠点として住民の交流が活性化することを支援します。

台風ヨランダの被災地では、男性が出稼ぎに出ていて、女性が残った家族を支えている例も少なくなく、世帯の生計手段の復興やコミュニティの再建のためにも、女性の参加が欠かせません。女性の声が復旧・復興支援に反映され、災害に強いコミュニティが再建されることが期待されます。

